

# 創作ダンスの指導法に関する質的研究

## － 熟練教師の実践における「行為の中の省察」に着目して－

福武 幸世 (岡山大学大学院)

### 1. 目的

本研究の目的は、公立中学校で28年間ダンス教育に携わっている熟練教師0氏の創作ダンス指導を、「行為の中の省察」という観点から、質的アプローチM-GTAによって深層的かつ探索的に検討し、その実践的指導力の特徴を明らかにすることである。

### 2. 研究方法

1) 授業者:0氏は、体育関係機関誌への論文執筆や実技講習会の講師として長年、教師教育に尽力し、優れたダンスの指導者として県内外から高い評価を受けている人物である。

2) 授業観察および聞き取り調査期間:2019年10月30日~2020年9月28日(計8回)

3) 対象授業:中学1年生の単元「創作ダンス」

4) 主な授業内容:(1)身近な生活や日常動作(対決)、(2)対極の動きの連続(追跡 走る一止まる)、(3)ものや小道具を使う(ペーパームーブメント)、(4)「見る」のストップモーションと群

5) 研究の流れ:

(1)岡山市立F中学校体育館にて、対象授業の参与観察およびビデオ撮影を行い、授業を記録する。

(2)同中学校進路指導室にて、記録映像を視聴し、再生刺激法を用いた聞き取り調査を行う。

(3)インタビューの逐語記録を作成し、M-GTAにより分析を行う。

### 3. 結果と考察

質的アプローチM-GTAを用いた分析を行った結果、5つのコアカテゴリー【教師観】【中学生のダンスへの抵抗感】【ダンスの指導】【即時的な指導】【指導中の困難感】と、12のサブカテゴリー〈理想〉〈使命感〉〈方向性〉〈方法〉〈スキル〉〈全体への指導〉〈個々への指導〉〈能力の見取り〉〈身体の見取り〉〈内面の見取り〉〈視点〉〈活動の進捗の見取り〉と44の概念が認められた。

### 3. 1. 実践的指導力の土台となる【教師観】と【中学生のダンスへの抵抗感】

熟練教師0氏が抱く【教師観】として、ダンスの授業では、生徒の心を揺さぶり、心と体が生き生きとした状態でダンス活動を楽しませたいという〈理想〉と、授業中の生徒のトラブルに的確に対処するといった生徒指導を重視した〈使命感〉が読み取れた。しかし、その一方で、《表現することへの恥ずかしさ》《教師からの活動の指示への反抗的な態度》《無邪気な場の雰囲気への反抗的な態度》という概念に見られるように、中学生のダンス学習に対する態度が否定的であると強く認識している。ダンス学習以前に、授業を成立させるため、いかにこうした【中学生のダンスへの抵抗感】という課題を乗り越えるかを、根底的な課題として抱えていることが浮かび上がった。

### 3. 2. 集団づくりを核とした【即時的な指導】と【ダンスの指導】

【教師観】と【中学生のダンスへの抵抗感】を土台として、具体的な指導行為の概念が抽出され、様々な省察から指導方略がなされていた。0氏は、中学生のダンス学習に対する態度が否定的であると強く認識しながらも、誰一人取りこぼさない集団づくりを核とした授業を実践していたといえる。教師と生徒のダンスを通じた身体的なやりとりが、自然に行える学校教育現場の在り方を模索し、【即時的な指導】と【ダンスの指導】を通して、個々の生徒の活動状況の変化に対応しながら、螺旋的・往還的な指導が展開されていた。

### 4. 結論

本研究において、「行為の中の省察」に着目し、0氏の実践を分析した結果、実践的指導力の特徴として、学校現場の文化的特性の中で、他者との関わりを重視した集団づくりを核とする指導が明らかとなった。